

令和5年度
西川町教育委員会事務事業点検・評価報告書

令和6年9月

西川町教育委員会

令和5年度 西川町教育委員会事務事業点検・評価報告書

1	教育委員会事務事業点検・評価	1
2	教育委員会の活動状況	
(1)	教育委員会委員	2
(2)	教育委員会の活動	2
3	教育委員会の活動状況に対する教育事務評価委員の意見	4
4	教育委員会事務事業に係る施策の体系	
(1)	教育委員会事務事業に係る計画の関連性	5
(2)	西川町教育大綱の概要	5
(3)	4つの基本的方向性	5
(4)	西川町教育振興基本計画施策展開体系図	6
5	事務事業点検・評価シート(8つの主要施策)	
(1)	「生きる力」の確実な育成	7
(2)	生涯の各段階を通じて推進する取組	11
(3)	社会的・職業的自立に向けた力の育成	13
(4)	意欲ある全ての者への学習機会の確保	14
(5)	新たな価値を創造する人材・グローバルな人材の育成	17
(6)	互助・共助による活力あるコミュニティの形成	19
(7)	生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり	22
(8)	自然や文化を生かした地域づくりの推進	25
6	教育事務評価委員の意見(総括)	27

1 教育委員会事務事業の点検・評価

はじめに

西川教育委員会では、平成 28 年 3 月に策定した教育大綱で、「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す。」を掲教育目標に掲げ、「社会を生き抜く力の養成」「未来への飛躍を実現する人材の育成」「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」「自然と文化を生かした心豊かな人づくり」を 4 つの基本的方向を柱に決めました。

また、令和 3 年 3 月には、令和 5 年度までの 3 カ年を対象期間とする西川町教育振興基本計画を改定し、上記の 4 つの基本的方向を実現するために 8 つの主要施策と 20 の重点施策を体系化し、各種事業を展開しています。

この度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、令和 5 年度に実施した事務事業について点検評価を行い、効率的な教育行政の推進及び町民に説明責任を果たすため、西川町教育事務評価委員の皆様からの意見をいただき、その結果を報告書としてまとめました。

点検評価の方法

(1) 教育委員会事務局職員による内部評価

西川町教育振興基本計画施策展開体系図に基づき、8 つの主要施策と 20 の重点施策毎に、令和 5 年度に実施した事業内容、その成果と課題、今後の方針について、内部点検評価を実施した。

(2) 西川町教育事務評価委員からの意見

客観性を確保するため、西川町教育事務評価委員（外部評価委員）に内部評価の説明を行った後に、事業内容や今後の方向性等についてご意見をいただいた。

(3) 報告書作成

教育事務評価委員からの意見も入れ込んだ事務事業点検報告書を作成

(4) 西川町教育委員会での審議

事務事業点検報告書について町教育委員会で審議

(5) 公表

町議会への報告及び町民への公表

西川町教育事務評価委員

氏名	役職名等
荒木 良弘	西川町社会教育委員
荒木 美知子	前小学校教諭
西谷 泰典	前西川小学校 P T A 会長

西川町教育事務評価委員会の開催内容

第 1 回目：令和 6 年 6 月 26 日 内部評価した内容について説明を行った。

第 2 回目：令和 6 年 7 月 18 日 意見をいただいた。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会委員

職名	委員名	任期
教育長	前田 雅孝	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日
教育委員	阿部 仁	令和 2 年 10 月 1 日 ~ 令和 6 年 9 月 30 日
教育委員	近松 和朗	令和 5 年 10 月 1 日 ~ 令和 9 年 9 月 30 日
教育委員	大泉 奈緒子	令和 3 年 10 月 1 日 ~ 令和 7 年 9 月 30 日
教育委員	高橋 美保	令和 4 年 12 月 23 日 ~ 令和 8 年 12 月 22 日

令和 6 年 3 月 31 日現在

(2) 教育委員会の活動

会議の開催

開催日	種別	議 事
4 月 26 日	定例	議第 1 号 令和 5 年度西川町学校教育センター職員の任命について 議第 2 号 西川町社会教育委員の委嘱について 議第 3 号 令和 5 年度西川町立小中学校の要保護・準要保護児童生徒の認定について 議第 4 号 西川町教育事務評価委員の委嘱について
6 月 1 日	定例	議第 5 号 西川町教育振興基本計画策定委員会設置要綱の設定について 議第 6 号 西川町教育振興基本計画策定委員会委員の委嘱について 議第 7 号 西川町教育支援委員会委員の委嘱について 議第 8 号 西川町青少年育成推進員の委嘱について 議第 9 号 西川町公民館職員の任命について 議第 10 号 西川町公民館運営審議会委員の委嘱について 議第 11 号 西村山地区教科用図書採択協議会委員の指名について 議第 12 号 西村山地区教科用図書採択協議会委員の推薦について
6 月 21 日	定例	なし
7 月 25 日	定例	議第 13 号 令和 6 年度使用教科用図書の採択について 議第 14 号 令和 4 年度西川町教育委員会事務事業点検・評価の報告について
8 月 22 日	定例	なし
9 月 26 日	定例	議第 15 号 令和 6 年度学級編制届出書について
10 月 24 日	定例	なし

開催日	種別	議 事
11月20日	臨時	なし
11月22日	定例	議第16号 令和5年度にしかわ地域・学校パートナー会議委員の委嘱について
12月19日	定例	議第17号 令和6年度寒河江市立中学校への区域外就学の承諾について
1月23日	定例	議第18号 令和5年度西川町立西川小学校及び西川町立西川中学校の入学予定者について
2月19日	定例	議第19号 第2次西川町教育振興基本計画の策定について 議第20号 西川町スクールバス条例の一部を改正する条例の制定について 議第21号 西川町開発センター条例の一部改正する条例の制定について 議第22号 欠番 議第23号 令和6年度西川町一般会計予算(案)(教育費)について 議第24号 令和6年度西川町立小学校就学予定児童の準要保護の認定について
3月7日	臨時	議第25号 令和6年度西川町立小中学校職員の人事異動内申について 議第26号 西川町育英奨学金返還猶予について
3月26日	定例	議第27号 西川町教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について 議第28号 令和6年度西川町立小中学校の要保護・準要保護児童生徒の認定について 議第29号 令和6年度西川町立小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 議第30号 学校運営協議会委員の任命について 議第31号 令和6年度西川町教育委員会所属職員の人事異動について

総合教育会議

開催日	協 議 案 件
1月25日	教育大綱・教育振興基本計画の策定について

学校訪問

実施日	内 容	場 所
6月21日	学校経営概要説明・授業参観・教職員との懇談	西川小学校
6月1日	”	西川中学校

その他(行事・研修等)

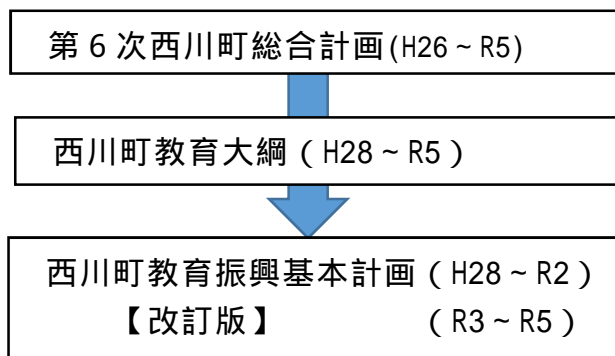
実施日	内 容	場 所
4月 1日	教職員辞令伝達式	西川町役場
7月 13日	西村山市町教育委員会連絡協議会総会・研修会 「部活動の地域移行の現状と課題」をテーマに情報共有 と今後の取組みについての意見交換	河北町役場
8月 3日	山形県市町村教育委員会大会	新庄市
8月 14日	二十歳を祝う会	西川交流センター
11月 22日	教育委員・校長教頭合同研修会 静岡県袋井市小中一貫教育視察の報告、意見交換	西川町役場
2月 24日	町総合表彰式	西川交流センター
3月 31日	退職教職員感謝状贈呈式	西川町役場

教育委員会の活動状況に対する教育事務評価委員の評価・意見

- ・学校訪問で教職員と直接対話できたことは大変有意義なことだと思われる。今の学校の状況や子ども達の実態や課題、さらには教職員の困りごと等を知ることができ、学校との共通理解が図られ今後の委員会の活動に生かさせる。
- ・他市町の教育委員会との情報交換や連携は今後さらに必要になるとと思われる。子ども達の心身の成長や学びについてよりよい環境を整えていけるように取り組んでいただきたい。
- ・町民の為、西川町の将来を担う子供たちの為に会議や研修を数多くこなして下さる委員会の皆様に感謝申し上げます。
- ・教育委員会の活動につきましては、様々な工夫を凝らしながら、日々検討していただいていると感じます。地域住民、学校教員、保護者等の意見をいただきながら、継続可能な事業を展開していただきたいと思います。

4 教育委員会事務事業に係る施策の体系

(1) 教育委員会事務事業に係る計画の関連性



(2) 西川町教育大綱の概要

教育の基本理念

**「ふるさとを愛し ふるさとに誇りを持ち
ふるさとの文化を高め 未来を拓く町民の育成」**

教育の基本目標

「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す。

「自立」… 一人一人が多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会

「協働」… 個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会

「創造」… 自立、協働を通して更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会

(3) 4つの基本的方向性

社会を生き抜く力の養成

社会が激しく変化の中で自立と協働を図るための能動的・主体的な力を誰もが身につけられるようにする。

未来への飛躍を実現できる人材の育成

変化や新たな価値を主導・想像し、変革を実現する人材、グローバル社会に置いて書く分野を牽引できるような人材を養成する。

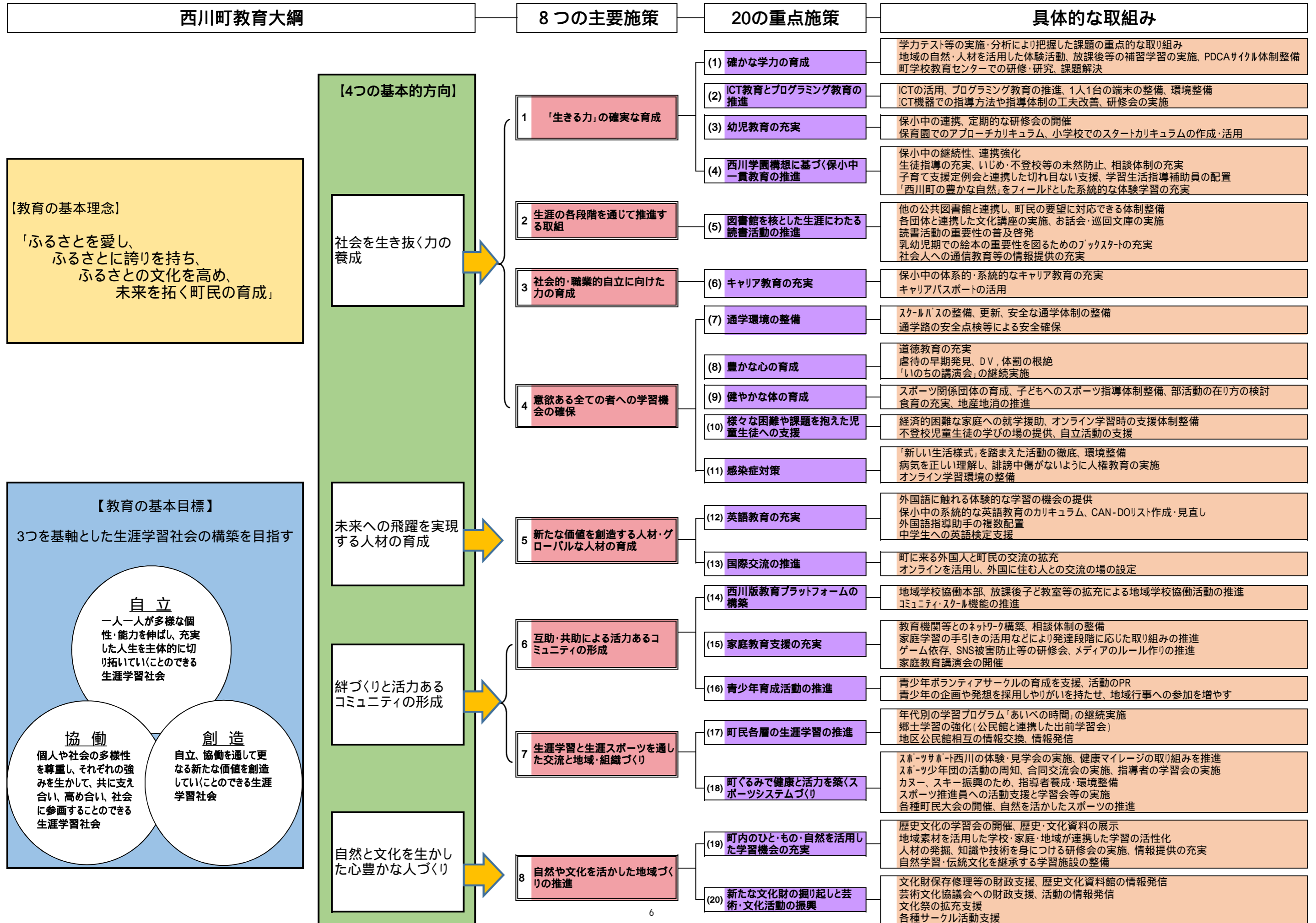
絆づくりと活力あるコミュニティの形成

個々人の取り組みに委ねるのではなく、社会全体の協働関係において推進し、学校教育内外の多様な環境から学び、相互に支え合い、様々な課題の解決や新たな価値の創出を促す。

自然と文化を活かした心豊かな人づくり

町の自然資源や文化財を大切に自然環境学習の一層の充実と、新たな文化活動に向けた取り組みを継続することで、心豊かな町民を育成していく。

(4) 西川町教育振興基本計画施策展開体系



5 事務事業点検・評価シート（8つの主要事業）

（1）「生きる力」の確実な育成

基本的方向1 社会を生き抜く力の養成 （1）「生きる力」の確実な育成

変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、「生きる力」を一人一人に確実に身に付けさせることにより、社会的自立の基礎を培う。また、一人一人の適性、進路に応じて、その能力を最大限に伸ばし、よりよい社会をつくっていくために必要な資質を養う。

重点施策

(1) 確かな学力の育成

(2) ICT教育とプログラミング教育の推進

(3) 幼児教育の充実

(4) 西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進

主な事業内容()成果()課題()

(1) 確かな学力の育成

学力テスト等の実施・分析により把握した課題の重点的な取り組み

知能検査(小2、小4、小6、中1)、NRT(小2～中3)、QUテスト(全学年)、ハイパーQUテスト(小2～中3)、全国学力テスト(小6、中3)

○小中学校とも課題を分析整理し、学力向上のための取り組みを行っている。

授業研究会でもそれらの課題を解決していく取り組みが見られた。

アンダーアチーバーの児童生徒が一定数見られる。さらに一人一人の児童生徒に応じた指導が必要だ。

NRT : 標準化された学力検査

QUテスト: 学校生活における児童紙生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等を質問紙により測定するもの

ハイパーQUテスト: QUの診断尺度に、対人関係を築く際に必要なソーシャルスキル尺度を追加したもの

地域の自然・人材を活用した体験活動、放課後等の補習学習の実施、PDCAサイクル

体制整備

中3を対象とした夏期・秋期受験対策講座

地域の自然や人材を生かした体験活動(ふるさと楽行・中学校での総合的学習等)

○夏期・秋期受験対策講座により、中3の学習に対する意識の向上を図ることができた。

○小中学校で地域の自然や人材を活かした生活科・総合的な学習に取り組むことができた。

カリキュラムマネジメントを行い、PDCAサイクルの体制整備を図っている。

体験活動が学力向上に寄与するよう、普段の学習とのつながりを考えて取り組んでいく必要がある。

町学校教育センターでの研修・研究、課題解決

町学校教育センターでの全体研修会、合同授業研究会、課題に沿った研修会

静岡県袋井市小中一貫教育視察研修を実施し(学校教育課・保育園・小学校・中学校から5名)、校長教頭合同研修会で報告

- 各部会で先生方が率先して、研究・情報共有に努め成果をあげることができた。
 - PDCA サイクルが機能するよう、NRT 分析のまとめ方を見直して取り組むことができた。
 - 組織体制や会議の持ち方を見直し、効率的な運営ができた。先生方も課題意識を共有して取り組む姿が見られた。
- 学力向上や生徒指導・特別支援教育の充実、心身の健全育成に結び付く研修になるような手立てを更に考えていく。

【今後の方針】

- ・教科横断的な「認知能力」を測り授業や学習の改善に役立てていきたい。
 - ・アンダーアチバーを減らすために、学校と連携して取り組んでいく。
- アンダーアチバー：心理学で、健康・性格・環境などに原因があって、知能水準から期待される力よりはるかに低い学業成績を示す者

(2) ICT 教育とプログラミング教育の推進

ICT の活用、プログラミング教育の推進、1 人 1 台の端末の整備、環境整備

- 学習支援ソフト(ミライシード)の導入、児童生徒用端末(305 台)の保守契約
- 端末・学習支援ソフトの使用などにより、学習のデジタル化を図ることができた。
- 小中学校とも各教室に 1 台ずつの電子黒板を整備している。
- 中学校では技術家庭の時間を中心にプログラミング教育を実施しているが、小学校での取り組みがないため、教材の購入の対応を行っていく。

ICT 機器での指導方法や指導体制の工夫改善、研修会の実施

- 一人一台端末、電子黒板の活用
- ICT 支援スクールサポーターの配置(小中合わせて年間 8 4 時間)
- 校務支援システムの導入を行い業務の効率化が図られている。
- ICT 機器を活用した授業方法について更に研修が必要だ。

【今後の方針】

- ・一人一台端末の活用を授業だけでなく、家庭学習と連動させて取り組んでいく。
- ・プログラミング教育の研修や教材の整備が必要。

(3) 幼児教育の充実

保小中の連携、定期的な研修会の開催

- 幼児教育について研修会(保育園全職員、小中学校教員)
- 保育士も学校教育センターの構成員となるよう要項を見直し、小中の研修に参加できる体制を整えたことで、積極的に研修や会議に出席していただき、共通理解を図ることができるようになった。また、気になる園児の様子を大沼心理士や SSWC、指導主事で見取りながら、園児への関わり方や就学の進め方について指導する体制づくりを推進した。
- 寒河江市教育委員会指導主事の指導により、遊びの場の環境づくりや小学校とのつながりを意

識した保育の在り方を学ぶことができた。

保育園でのアプローチカリキュラム、小学校でのスタートカリキュラムの作成・活用

○西川小経営計画に記載し、保小の接続が円滑に進むよう取り組んだ。

○保育園の学びを共有することで、それを土台に 1 年生の学習がスタートするようになっている。

小学校低学年の先生の要望で共有した保育園の年間カリキュラムを有効に活用していく。

【今後の方針】

・ 保育園での研修の継続

・ アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムによるより一層効率的・効果的取り組みを行う。

(4) 西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進

保小中の継続性、連携強化

保小連絡会、小中連絡会、小中合同授業研究会

○保小中一貫教育の質的向上をめざすため、学校教育センター小中合同授業研究会への取り組みを改善し、小中教員の意識や情報の共有を進め、それぞれの強みを活かす体制づくりを行うことができた。

学習歴や生活歴の幼小、小中の情報共有を進め、前段階に身に付けた能力を活かした学習や生活になるようにさらに配慮していかなければならない。

生徒指導の充実、いじめ・不登校等の未然防止、相談体制の充実

スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置

学校教育課での相談体制整備

西川中の相談室へのエアコン設置

西川中にパーテーションを購入し、個別学習できる環境を整備

○SC、SSW の配置を通して、相談体制の整備を図ることができた。

○学校教育課での相談室の利用があり、生徒や保護者との面談回数が増えてきた。

○別室登校の教室や学習ルーム等を整備し、担任の空き時間等を活用して、不登校傾向の生徒のフォローを行う様子が見えた。

引き続き不登校解消に向けて西川中への指導や支援を行っていく。また、西川小においても、しなやかで強い心を育てることができるよう取り組んでいただく。町全体としては不登校児童生徒、または子ども達の第 3 の居場所づくりが必要だ。

スクールカウンセラー（SC）：学校に配属され、生徒や教師の心のケアを行う人

スクールソーシャルワーカー（SSW）：教育、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する人で、問題を抱えた児童生徒に対し、子どもが置かれた環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークの構築など、多様な支援方法で課題解決への対応を図っていく。

子育て支援定例会と連携した切れ目ない支援、学習生活指導補助員の配置

月 1 回の子育て支援連絡会での情報共有

学習生活指導補助員を小学校 5 名（7 時間 3 名、4 時間 1 名、3 時間 1 名）、中学校 2 名（7 時間 1 名、6 時間 1 名）配置

個別の指導支援に対応することができた。

個別の指導や支援が必要な児童生徒が複数存在するので、継続的な配置が必要である。

「西川町の豊かな自然」をフィールドとした系統的な体験学習の充実

保小中での自然体験学習を意識した取り組み

小5を対象としたブナの森自然学校

西川小学校全学年でのふるさと楽行

西川中学校1年での月山をフィールドとした学習

○ふるさと楽校の取り組みを通して、地域の人材や自然に学ぶことができた。

○西川中での総合的な学習の時間の取り組みを見直し、系統的な探究活動ができるように改善している。

学習者のニーズに対応する探究的な学習の場としての体験学習の方向へ、質的転換を図っていく。

【今後の方針】

- ・ 自然環境や地域の人材を活用し〔逞しさ〕を育むための保小中一貫した取り組みを行う。
- ・ ふるさと学校の在り方を見直し、課題解決力を育む展開となるよう改善を図っていく。

【教育事務評価委員より】

- ・ 小規模学校のメリットを生かし、一人一人の実態に対応したていねいな指導がなされている。（各種の調査による実態把握、個別の学習指導など）
- ・ 自ら主体的に学ぼうとする意欲や課題解決力を育むために、積極的に機器を導入したりこれまで継続してきた事業のねらいや取り組み方を見直したり柔軟に対応している。（タブレットの活用、ふるさと学校の質的転換）
- ・ 不登校解消に向けての第3の居場所を一日も早く作って頂き一歩先に踏み出して頂き、不登校0を目指して頂きたい。
- ・ 中3を対象とした夏季・秋季受験対策講座により意識の向上につなげ、自分の目標とする学校に進んでほしい。
- ・ 探求心を育てる（ふるさと楽行を自分達で選択）工夫がとても良いと感じる。

(2) 生涯の各段階を通じて推進する取組

基本的方向 1 社会を生き抜く力の養成

社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けられるようにする。そのために質の高い学習機会を充実させるとともに、学習成果が広く活用されることを目指す。

重点施策 (5) 図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進

実施状況() 成果() 課題()

(5) 図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進

他の公共図書館と連携し、町民の要望に対応できる体制整備

県立図書館等との相互連携（借受 531 冊）により、町民の要望に対応している。

各団体と連携した文化講座の実施、お話し会・巡回文庫の実施

■西川中学校、岩根沢地区、大井沢地区での巡回文庫の実施（利用実績：2,800 冊）

俳句を楽しむ会（せせらぎ俳句会） おはなし会（ぴーつく）の開催

ファンタイムライブラリー（図書館での音楽会、まんが喫茶コーナー）

音楽に関する絵本を集めたおはなし会や工作教室、さらに、音楽グループによる二重唱コンサート開催により、幅広い年代の方の参加があった。まんが喫茶コーナーは好評であったため、引き続き開催した。

読書活動の重要性の普及啓発

■小学校低学年棟へ移動図書を行い、本に触れる機会を増やした。

■男女で本のアピールを行う紅白本合戦を行い、関心を持ってもらう機会の創出に努めた。

■初発指導として全学年を対象に、図書館の使い方のレクチャー及びブックトークの開催。

乳幼児期での絵本の重要性を図るためのブックスタートの充実

11.12 ヲ月健診時に親子にブックスタートの本 2 冊をプレゼントしている。

本の読み聞かせをすることで赤ちゃんは心豊かに成長できる。

社会人への通信教育等の情報提供の充実

大学の通信教育等の情報や、就職情報等のチラシなどを館内に常備している。

【今後の方針】

- ・新たな利用者を増やすため、図書館主催のイベント、講座等の実施を継続
- ・高齢者層、図書館から遠い地域の町民へのサービス充実に努める。

【教育事務評価委員より】

- ・岩根沢地区と大井沢地区での巡回文庫を実施してくださったのは良かった。さらに各地域へも広めていただきたい。また、トラスや公共の場に分館として置くことはできないか。（雑誌類などでも。）
- ・タブレットを活用した図書の紹介とともに、脳トレになるような問題やクイズなども発信していただくと有難い。

- ・児童の図書委員による男女での紅白本合戦をやって、本に対するキッカケ作りが上手くいっているとの話を耳にしました、今後も継続して頂きたい。
- ・通信教育等の情報提供や、新刊の紹介等はタブレットを多いに使用し、主催イベントや講座等は自宅等でも見られるような配信サービスを考えていただきたいと思う。
- ・各団体と連携した文化講座の実施、お話会、巡回文庫の取り組みについて、様々な工夫が凝らされていると思う。タブレットを全戸配布しているので、上手く活用し周知することで、より活発な活動になると思う。

(3) 社会的・職業的自立に向けた力の育成

基本的方向1 社会を生き抜く力の養成

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に付けるとともに、勤労観や職業観等の価値観を自ら確立できる子どもや若者の育成を目ざす。また、多様な職業生活に必要な知識や技能を生涯のどの時期においても身に付けられるようにする。

重点施策 (6) キャリア教育の充実

実施状況()成果()課題()

(6) キャリア教育の充実

保小中の体系的・系統的なキャリア教育の充実

中2での職場体験学習

○西川中の職場体験学習トライやるウィークを開催し、町内の業者や施設の様々な仕事を体験することができた。地域支援コーディネーターより、新たな体験事業所を開拓していただいた。

キャリアパスポートの活用

取り組みについての現状把握を行っていく。キャリアの記録方法について、検討の余地がある。

キャリアパスポート：小学生から高等学校までのキャリア教育に関する活動について記入し、記録を集積していく。

【今後の方針】

- ・トライやるウィークでは、受け入れ事業所の新規開拓を行い、仕事の多様性を学ぶことができるようにする。
- ・キャリアパスポートを有効に活用してもらい、自尊感情を高めるようにしていく。

【教育事務評価委員より】

- ・小学生からキャリア教育を授業化していくことで職業意識を育てることは大切と思われる。町内企業に限らず広い視野で様々な職業に触れることで、学ぶ意欲にもつながる。ただし実社会では自分になりたい職業に必ずなれるとは限らない。夢を持つことと同時に働くことの意味についても考えさせていきたい。自分の好きなことと自分に向いていることは違うこともある。自分自身を見つめ、知ることが大事。
- ・職業体験学習は今後も続けてもらいたい。
- ・様々な職業を見学、体験し、興味を持ってもらう事が一番重要だと思います。様々な、職場を体験できる取組を、今後も継続していただきたいと思う。

(4) 意欲ある全ての者への学習機会の確保

基本的方向 1 社会を生き抜く力の養成

様々な困難や課題を抱えて支援を求めるものに対して、生涯を通じて多様な学習機会を確保する。また、安心で安全な教育環境の整備に取り組む。

重点施策

(7) 通学環境の整備

(8) 豊かな心の育成

(9) 健やかな体の育成

(10) 様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援

(11) 感染症対策

実施状況() 成果() 課題()

(7) 通学環境の整備

スクールバスの整備、更新、安全な通学体制の整備

29人乗りスクールバス購入(14号車)

法定点検、修繕、スタッドレスタイヤ購入、IP無線での安全確認等

スクールバスについて、計画的な更新が図られた。

対話会を開催し、小学校の徒歩通学区域の保護者の要望により冬期間のバス通学を実施した。運行形態、路線が複雑になっており、全体的な見直しや学校、運行業者、教育委員会での3者で打合せを実施した。

対話会の要望により、夏季に自転車通学している中学生はバス通学を可とした。

○熱中症予防の観点から、下記のスクールバスの柔軟な対応を実施した。

統合して10年経過し、児童生徒数も減少していることから今後運行経路などの検討が必要。

通学路の安全点検等による安全確保

年2回の合同点検

交通生活安全対策協議会での育成会からの要望に基づいた対応

スクールガードリーダー2名配置

○合同通学路点検を行い、危険個所の把握と安全確保を行うことができた。

未修繕箇所の整備の要望を行っていく。

【今後の方針】

- ・ 計画的なスクールバス更新
- ・ 通学路の定期的な安全点検と危険箇所の改善及び要望を行っていく。
- ・ 必要に応じて対話会を開催していく。

(8) 豊かな心の育成

道徳教育の充実

人権教育の推進

○人権の花植え等町の事業を活用しながら積極的に取り組まれている。

虐待の早期発見、DV、体罰の根絶

健康福祉課との連絡体制、情報共有に努めている。

○子育て支援会議で情報共有や対策について協議され、重大な事案は発生していない。

「いのちの講演会」の継続実施

小学校、中学校での性教育講演会

児童生徒のいのちを大切にする意識を高めることができた。

【今後の方針】

- ・人権教育研究の成果を活かし、自身および他を尊重しながら生きる素地を養う取り組みを行う。
- ・特別の教科道德の学習を通して豊かな心を育成する。

(9) 健やかな体の育成

スポーツ関係団体の育成、子どもへのスポーツ指導体制整備、部活動の在り方の検討

部活動指導員の配置

部活動大会補助

○部活動指導員を配置し、水泳大会への引率や遠隔地での部活動への支援を行うことができた。

部活動の地域移行については、西村山教育委員研修会での情報共有、西村山母親委員会での西川町の事例発表、保護者への情報提供などを行った。

地域移行への新しい枠組み、体制づくりに向け対話会を継続する。

食育の充実、地産地消の推進

小・中学校では、食育に関する目標、重点、年間指導スケジュール等の食育指導計画に添った取り組み

学校栄養士による食育指導、給食便り発行

健康福祉課で作成した健康レシピ集を給食メニューに取り入れている。

放課後子ども教室で食生活書推進員による朝ごはんの大事さ及び味覚教室の実施

給食食材として町内産の野菜・米を使用

○給食に旬の地産地消の食材を取り入れ、負担の無い程度の手づくりで、家庭であまり出ないおかずを美味しく提供することができた。

【今後の方針】

- ・土日のスポーツ活動に対する環境整備を行うことも含めた部活動の地域移行の推進

(10) 様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援

経済的困難な家庭への就学援助、オンライン学習時の支援体制整備

就学支援制度の周知（個人通知、PTA総会資料と一緒の配布）

就学支援児童生徒へのモバイルルーターの無料貸し出し

○家庭での通信環境を整えるため、必要な家庭にルータの貸し出し

就学支援制度の規準を満たす児童生徒に対して支援漏れの無いよう、関係各課と連携し更に制度の周知に務めていく必要がある。

不登校児童生徒の学びの場の提供、自立活動の支援

ピーちくLOVEにしかわの継続、相談室の開設、周知を図るためのイベント開催
○スクールソーシャルワークコーディネーターを配置し、各事業の計画立案を行った。
○居場所づくり・相談室の立ち上げ、ピーちくLOVEの立ち上げを行い、イベント等を開催しながら、周知を図ることができた。

【今後の方針】

- ・就学支援制度の周知の徹底（健康福祉課との連携、お知らせ版での周知）
- ・不登校児童生徒の相談室、居場所づくりの推進、関わってくれる地域住民を増やす。

(11) 感染症対策

「新しい生活様式」を踏まえた活動の徹底、環境整備

新型コロナウイルスが5月から5類感染症に移行
新たな備品購入等の環境整備は終了した。

病気を正しい理解し、誹謗中傷がないように人権教育の実施

文書等で周知し、折に触れて指導を行った。

オンライン学習環境の整備

オンライン学習がいつでもできるよう、タブレット家庭学習デーの取り組み
○一人一台の端末整備し、出席停止の際も可能な限りリモート学習を行った。

【今後の方針】

新型コロナウイルス感染症が収束したことにより終了

【教育事務評価委員より】

- ・対話会を開催し、保護者の要望に応じて児童生徒のバス通学を実施できたことは良かった。今後も柔軟な対応をしていくことが望まれる。
- ・旬の食材を使った手作りの給食を提供(地産地消)していることは有難い。望むことは、自ら主体的に食べる食習慣を身に付けてほしいということ。給食は食べるが家庭ではどうか、社会に出てからはどうか。世の中にはおいしいものがたくさんある。その中で自分は何をどう食べるのか、食の自立を目指したい。
- ・対話会を通して、スクールバス・安全な通学体制の整備などが進んだことについてよかったと思う。
- ・(1)でも上げたが、不登校解消に向けての第3の居場所・相談室を一日も早く作って頂き一歩先に踏み出して頂き、不登校0を目指して頂きたい。
- ・熱中症対応として、スクールバスの運行など、柔軟に対応いただき学校、保護者として非常にありがたい。
- ・今後も、関係機関と連絡を密にし、対応していただきたいと思う。

(5) 新たな価値を創造する人材・グローバルな人材の育成

基本的方向2 未来への飛躍を実現する人材の育成

豊かな語学力やコミュニケーション力を備えた世界に通用する人材を育成すると同時に、日本や異文化のよさも理解し、社会の各分野で活躍できる人材を養成する。

重点施策

(12) 英語教育の充実

(13) 国際交流の推進

実施状況()成果()課題()

(12) 英語教育の充実

外国語に触れる体験的な学習の機会の提供

小学6年生のブリティッシュヒルズでの外国語宿泊研修の実施

日常の基本的会話を可能にするための町独自の英語検定の立ち上げ

外国語宿泊研修や学校にネイティブスピーカーが常勤していることで、英語でのコミュニケーションをとることができている。

英語検定については、一層の周知と工夫で取り組む児童生徒の増加を図っていきたい。

保小中の系統的な英語教育のカリキュラム、CAN-DO リスト作成・見直し

○ALTを中心に英語教育の推進を図ることができた。

CAN-DO リストを活かした学習の更なる展開が必要である。小学校時の英語学習の成果を検証するため、令和4年度から中学1年生も英語のNRTを実施し、小学校時の学習の成果を測定できたが、標準点に至っていない部分がある。

外国語指導助手の複数配置

町職員、ALT2名体制の継続

○保小中での英語学習、外国語活動ができた。

ALTとしての資質能力の向上を図る。

中学生への英語検定支援

中1～3年英検受検料を町が負担

76%の受験率。受験者数(チャレンジする気持ち)を増やしていきたい。

【今後の方針】

- ・ネイティブスピーカー、外国人と億劫なくコミュニケーションできる力を育むため、現在実施している事業の継続
- ・ALTによる西川町版英語検定を実施し、コミュニケーション力の全体的底上げを図る。
- ・来町した外国人と町民・児童生徒の交流機会の提供
- ・オンラインを活用した外国人との交流機会の提供

(13) 国際交流の推進

町に来る外国人と町民の交流の拡充

台湾師範大学と西川中学校生徒との対面交流

○サテライトスクールで訪れた英語をツールとして授業を行う小学校児童と、子ども教室の児童が交流できた。

オンラインを活用し、外国に住む人との交流の場の設定

台湾南湖小と西川小とのオンラインでの交流会

○小学校は姉妹校の盟約を2校と結び、新たに小中各1校との盟約も予定している。

【教育事務評価委員より】

- ・海外への興味や関心を広げる活動などもあればよい。（食、文化、音楽、スポーツなど）
- ・パリオリンピックの視聴、学習への活用
- ・小中学生の海外訪問の実現を。
- ・町職員とALT2名体制での保小中での英語教育は大いに成果が得られそうで、英検の受験率・合格率アップにつながりそうですね。
- ・オンラインによる国際交流には新たに小中各1校が予定されていますが将来短期留学などが出来ないものか。
- ・英語教育の充実について、文化祭でALTの指導を受けながら「英語」を使って演劇を作り上げたり、英語は非常に身近なものとなったと感じる。ALT2名体制や、様々な政策により子供たちの英語への興味が増してきていると実感している。

(6) 互助・共助による活力あるコミュニティの形成

基本的方向3 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

個々人の多様な学習活動の実施や参画により、家庭や地域のネットワークを広げ、互いの支え合いや助け合いによる、活力あるコミュニティを作っていく。特に学校や社会教育施設を地域の振興に貢献する拠点と位置づけ、協働体制を整備しながら、住民の地域社会への参画を拡大していく。

点施策重

(14) 西川版教育プラットフォームの構築

(15) 家庭教育支援の充実

(16) 青少年育成活動の推進

実施状況()成果()課題()

(14) 西川版教育プラットフォームの構築

地域学校協働本部、放課後子ども教室等の拡充による地域学校協働活動の推進

小学校(ふるさと楽行・校外学習・スキーやカヌー教室等)、中学校(総合学習・月山フィールドワーク)、放課後子ども教室(民謡教室等各種教室)での地域住民の参画が図られている。

放課後子ども教室において、希望する全児童が利用できるようになった。

放課後子ども教室において、スポーツまつり、ハロウィンパーティなどイベントを積極的に開催

○子ども教室で地域の方々の協力によるイベントには多くの児童が参加

子ども教室のスポーツまつりなどのイベントで、協力している多くの地域住民も参加し、住民同士の交流もできた。

児童や保護者の意見を吸い上げながら運営改善を継続する。

コミュニティ・スクール機能の推進

学校運営協議会の開催

サポーターズバンクによる地域の方々とのマッチングによる学校支援と学校地域パートナー会議の再編

○熟議のみならず、学校と連携した取り組みを行おうとする機運が高まってきた。

サポーターズバンクの活用による草刈りボランティアを2回実施し、作業後に給食を一緒に食べる子ども達との交流も図られた。

熟議内容の実践化

【今後の方針】

・学校と地域が連携して、それぞれの課題を解決できる取り組みを目指していく。

(15) 家庭教育支援の充実

教育機関等とのネットワーク構築、相談体制の整備

○スクールソーシャルワークコーディネーターを中心に、課題を抱える保護者への相談対応を行った。健康福祉課とも情報共有しているが、一層の連携を取っていく必要がある

家庭学習の手引きの活用などにより発達段階に応じた取り組みの推進

学習状況調査から、家庭学習の時間が短い状況がうかがえる。家庭学習の手引きを確実に活用しながら取り組んでいく必要がある。

ゲーム依存、SNS 被害防止等の研修会、メディアのルール作りの推進

学校・PTAによるメディアに関するルールづくり

中学校でメディアコントロールの取組み実施

小学校では生活リズム強化週間（メディアコントロール）の取組みを実施

学校教育センターの部会で調査・研究を行った成果を各家庭での実践に結び付ける必要がある。

家庭教育講演会の開催

小学校において講演会を開催し、保護者への啓蒙を図る予定。中学校においては家庭教育の補助金を活用していないが、PTA 行事の一貫として生徒と保護者が一緒に講演会を行った。

【今後の方針】

- ・家庭学習、メディアコントロール等の課題についての教育委員会、学校、PTAが連携した取組みの推進
- ・保育園、小・中学校での家庭教育に関する講演会支援
- ・学校教育センターにおいて、家庭学習の手引きの見直しとデジタル化

(16) 青少年育成活動の推進

青少年ボランティアサークルの育成を支援、活動のPR

■color's によるボランティア活動、各種事業への運営協力

○寺縁日、蔵書点検、ファンタイムライブラリーへ参加し、お手伝いやサポートを行った。

△メンバー同士の意見交換会等で、メンバーがやりたいことを確認することが必要である。

青少年の企画や発想を採用しやりがいを持たせ、地域行事への参加を増やす

地域活動の手法等を学び合うMYボランティアスキルアップセミナーへの参加

青少年が地域活動を始めやすい環境を整備することが求められている。

【今後の方針】

- ・地域のイベントに入りやすい環境づくり
- ・中高生が地域の祭りや伝統芸能などの地域活動に企画段階から参画する等、主体的な活動の推進

【教育事務評価委員より】

- ・家庭学習の内容を広くとらえられないだろうか。基礎学力の定着や授業の予習の他に、主体性を育むというねらいで自ら考えて取り組む学びというのがあってもよいのでは。（直接授業に関係なくても、好きなことや興味のあることに自分で考えて取り組み記録する。）
- ・メディアコントロールについては、今後とも子ども達への指導と家庭と一体になった取り組みを大事にしていきたい。

- ・最近お母さん達により様々な催し物が開催され、子供達が参加しコミュニティを形成しているようだ。
- ・小学校、中学校、放課後子ども教室での地域住民の参画が図られています。町独自の特色ある活動なので、これからも継続して頂きたい。
- ・西川版教育プラットフォームの構築について、放課後子ども教室には外部からの協力をいただき、児童、地域住民共に良い活動であると思う。年齢問わず、顔の見える関係を構築することは、互助・共助に欠かすことは出来ない非常に大切な事であると思う。

(7) 生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり

基本的方向3 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

地域や町民のニーズに対応した適切な学習機会を社会教育施設等において提供する等、総合的に支援するシステムを構築し、交流による地域づくりを促進していく。

重点施策

(17) 町民各層の生涯学習の推進

(18) 町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり

主な事業内容()成果()課題()

(17) 町民各層の生涯学習の推進

年代別の学習プログラム「あいべの時間」の継続実施

■なでしこアカデミー 年間1回 参加30人

・内容 味噌づくり講座(女性対象 2/22)実施

○LOVEらぼ(代表:松田あゆみ)に業務委託の形式で実施、自主運営に向けた取組みを推進

郷土学習の強化(公民館と連携した出前学習会)

■丸山薫少年少女文学賞「青い黒板賞」第30回応募総数579点

○青い黒板賞の応募点数は増加傾向にある。

地区公民館相互の情報交換、情報発信

△人口減少等により、各地区公民館の運営方法等が課題になってきている。

【今後の方針】

公民館・各種生涯学習関係団体・関係組織の主体的活動促進

- ・生涯学習係と中央公民館による実態把握と適切な支援
- 町民のニーズにフォーカスした生涯学習事業の戦略的展開
- ・町民との対話による、事業の企画立案と実施

(18) 町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり

スポーツサポート西川の体験・見学会の実施、健康マイレージの取り組みを推進

スポサポ西川の事業展開 令和5年度開催教室(8教室を延べ315回、会員約177名が延べ3,044人参加) 前年度比:教室数 1、開催数+104、会員数+27、延べ参加数+963人 町民の生涯スポーツに関してある程度のニーズに応えている。

生涯学習課が運営事務の一部を担っており、完全自立はまだ困難である。

健康福祉課主管健康マイレージ事業との連携 生涯学習関連の各種事業や町民スポーツ大会等でポイントスタンプ獲得。スポーツ推進委員が各種大会や教室開催の折に事業のPRを担う。

コロナ後、少しずつではあるが各地のミニデイは開催され、スポーツ推進委員が出向いた機会もあった。町民スポーツ大会は通常開催されるも参加チームが減少。

全戸配布したタブレットを活用した取り組みの検討が必要。

スポーツ少年団の活動の周知、合同交流会の実施、指導者の学習会の実施

令和5年度団編成 4団体68名(指導者数16名)

西川町・大江町スポーツ少年団合同わくわく交流スポーツ教室(12/10実施・西川町会場)

山形県スポーツ少年団指導者研修会(10/22実施)

スポーツ活動だけでなく、交流活動などの幅広い分野を体験し、協調性や礼儀等を学ぶことにより健全な人間育成に役立っている。

少子化による団員数の減少等で、団の維持が困難になってきている。

カヌー、スキー振興のため、指導者養成・環境整備

町のスポーツ「カヌー」「スキー」の普及振興と競技力向上

小学校での体験授業や全国大会等での町出身選手の活躍

今後の安定的な競技人口の確保と指導者の養成、会場の環境整備・維持管理

スポーツ推進委員への活動支援と学習会等の実施

軽スポーツ出前教室、健康マイレージ事業推進

老若男女が取り組むことができるラジオ体操とけん玉のスキルアップ

出前教室の開催促進、委員の更なるスキルアップ

各種町民大会の開催、自然を活かしたスポーツの推進

各種町民スポーツ大会

令和5年度の各種大会はほぼ開催(スキー大会 JONDAZNE は少雪のため中止)

カヌーとスキーはニーズを捉え、新たなスタイルのイベント(大会)へシフト。主管団体であるそれぞれの町協会が運営を担い開催。町から運営委託金を交付。

*町民カヌー大会 MOLDOVA CUP(ホストタウンレガシー事業として)

*町民スキー大会 Nishikawa Ski JONDAZNE Championship(ゲレンデスキー)

○壮年ソフトボール大会や、壮年バレーボール大会、家庭婦人バレーボール大会も、主管団体であるそれぞれの町協会が運営を担い開催。町から運営委託金を交付。

町駅伝大会は今年第70回。今大会までは公民館の負担軽減(選手輸送バスの運行や中継所スタッフの外部協力員手配)やふるさと選手ルールの規制緩和を図りながら開催し、来年以降の新たな大会の在り方を探る。コロナを機に、従来の大会では負担が大きすぎる旨の意見が多数寄せられ、関係者にアンケートを行った結果、約8割の方々から新たな大会を望む声が寄せられた。町スポーツ協会と町陸上競技協会とともに新たな大会の在り方を協議検討してきた。

町スポーツ協会の事業補助の増額支援(町委託金に上乗せ、申請事業上限数の引上げ)

コロナを機に、町民のニーズ・嗜好性に合わせた無理のない行動(参加)への変遷や、けがや事故が起きた場合の責任所在への懸念など、従来の「地縁型の強制参加」ではなく「興味参加型の能動的参加」に町民の意識が変わってきたため、各種大会の在り方や各地域での取り組み方など検討の余地あり。

【今後の方針】

健康づくりスポーツシステムの構築（部活動改革も絡めて）

各種スポーツ大会の持続可能な持ち方への転換

- ・ 関係団体との綿密な連携による実施方法等の見直し
スポーツサポート西川の運営支援（観光協会に委託。初年度につき町が伴走）
- ・ 指導者の確保と運営スタッフの養成等
部活動の地域移行に向けた課題把握と環境整備
- ・ 中学校、スポーツ協会、各種スポーツ団体等の連携強化による環境整備

【教育事務評価委員より】

- ・ 生徒の主体性や権利を尊重するという意味で部活加入を任意にするという考え方も理解できる。柔軟な考え方が必要だと学ぶことができた。
- ・ タブレットを活用してのストレッチや軽い運動などの提供をお願いしたい。（後期高齢者でなくても足が不自由で参加できない方、車を運転できない方、遠方の方々のために）
- ・ 健康マイレージに関して、全戸配布のタブレットや個人のスマホで使用できるアプリを開発して頂きたい。
- ・ 軽スポ出前教室等で会場に足を運ばなくともできる種目のタブレット配信等が出来ればと思う。
- ・ スポサポ西川の参加者が増加していることは大変望ましいことです。観光協会に運営を委託するのであればスポーツと観光の融合ができるのではないかと。
- ・ スポーツサポート西川の事業について、コロナも5類に移行となり、会員数も増え、老若男女問わず生涯スポーツのニーズに応えていると感る。

(8) 自然や文化を生かした地域づくりの推進

基本的方向 4 自然と文化を生かした心豊かな人づくり

本町には、古くから出羽三山信仰などによりもたらされた文化的遺産や民俗伝承、月山・朝日連峰、寒河江川ど豊かな自然が創り出した美しい景観があり、また、大井沢地区では、大井沢小中学校と地域の人と一緒に、朝日連峰の大自然のもとに全国に先駆けて自然研究・自然学習が取り組まれてきた。また、手付かずの自然が今も多く残されている月山山麓には、野外での自然学習施設として、県立自然博物館がある。これらの自然資源や文化遺産を大切に、自然学習、新たな文化活動に向けた取組みを継続する。

重点施策

(19) 町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実

(20) 新たな文化財の掘り起しと芸術・文化活動の振興

主な事業内容()成果()課題()

(19) 町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実

歴史文化の学習会の開催、歴史・文化資料の展示

■町歴史文化学習会は6回開催。

○学習会は毎回20人程度の受講者がいる。実行員会を組織し、自主運営の形態で活動を行っている。

△学習会参加者の固定化

地域素材を活用した学校・家庭・地域が連携した学習の活性化

■西川小学校での町内各地区を会場とした「ふるさと楽行」や、ブナの森自然学校の実施

○企画の段階から学校と地域の連携が図られている。

人材の発掘、知識や技術を身につける研修会の実施、情報提供の充実

■大井沢自然博物館等への学芸員の配置

○カエル、イワナ等をはじめ、触れて、感じ、体験できる生きた生物の展示会の実施

自然学習・伝統文化を継承する学習施設の整備

○安中坊ガイドクラブの組織活性化

△各施設における案内ガイド(ボランティア)の養成

【今後の方針】

各組織の活性化

・新たな人材、とりわけ若い世代の取り込みが実現できる環境づくり

(20) 新たな文化財の掘り起しと芸術・文化活動の振興

文化財保存修理等の財政支援、歴史文化資料館の情報発信

■町文化財等への保存管理費の負担等

○町ホームページで企画展のPRをする等、情報発信に力を入れたことにより、町歴史文化資料館入館者数が過去最多の3,324人となった。

△文化財指定及びその後の保存等に関して、所有者との関わりに課題がある。

芸術文化協議会への財政支援、活動の情報発信

■町芸術文化協議会に対する補助及び会場使用料の補助（1/2）

△加盟団体の高齢化による会員数の減少に伴う活動の縮小

文化祭の拡充支援

■展示点数 797点、ステージ発表 21団体、入場者数：作品展示 956人、ステージ発表約 718人

各種サークル活動支援

各種教室へ支援（補助金等）を行いながら、自主運営に向けた取組みを強化

【今後の方針】

伝承活動等の持続可能な体制づくり

- ・地域、団体等の実情に基づいた組織の活性化

【教育事務評価委員より】

- ・他市町や県外に出て西川町について聞かれた時に、自信をもって答えられるようになってほしい。（西川町民である誇りや自尊感情、基本的な知識など）
- ・町独自の芸術文化活動の実施は難しいのであれば、例えば山形交響楽団の演奏会や中央からの催しなどへの補助事業があるとよいのではないか。
- ・町内各地区「ふるさと楽行」等学校と地域の連携が図られ、対応する地区の大人の方々も新たに自分の地区を知ることが出来るのではないのでしょうか。是非継続して頂きたい。
- ・大自然を身近に感じ、四季の移り変わりを肌で感じる事が出来る西川町、文化的遺産が多い西川町を大切に、自然学習に取り組み、伝統芸能等若い人・子供達に継承していってもらいたい。
- ・小学校のふるさと楽行等は、西川町の自然や文化を学ぶ、とても良い機会だと思う。
- ・普段、自分が住んでいる町の魅力を、子供たち自ら発見できるような、より多くの機会が大切だと思う。

6 教育事務評価委員の意見（総括）

【教育事務評価委員より】

- ・西川町の特性を活かした体験学習を継続することで、ふるさとを知りふるさとの誇りや愛着をもつ子どもの育成に努めている。
- ・時代の変化に適応するために、新たな学習機器を導入したり、学習環境を整えたり、素早く柔軟に取り組みがなされている。
- ・小規模校の特性を生かし、一人一人に対応したていねいな実態把握やきめ細かい指導が実践されている。
- ・望むことの一つ目は子ども達に西川町で教育を受けて培うことができた「強み」を身に付けてほしいこと、二つ目は一人一人が「自分の頭で考え判断できる力」を身に付けてほしいことである。
- ・教育の基本理念・基本目標・4つの方向性・8つの主要施策・20の重点施策の計画のもと、一つ一つ着実に取り組み教育振興基本計画（後期プラン）の施策評価において全ての評価が、十分達成に近づくように8つの主要施策の今後の方針や評価の視点等を課題とし進めて頂きたいと思う。
- ・教育委員会としての役割を果たすべく、組織が一丸となって、柔軟かつ迅速な対応や検討を行い、尽力いただいていること感謝する。少子高齢化がより深刻化していく中で、西川町の特色を生かし、教育大綱で示す基本理念の実現に向けたより一層の取組に期待している。
- ・自然災害が全国的に発生している中で、水がない時のトイレの訓練や、災害時に判断し行動できる防災教育は必要だと思う。